○学年第○時　「こんなときどうした？」　自己開示

【エクササイズ（ＥＸ）＆準備物】

　　ウォーミングアップ「この色なぁに？」 ：折り鶴用の色紙セット（一色ずつグループ分）

　　メインＥＸ『こんなときどうした？』　 ：困難カードセット（グループ分）

ワークシート（全員）

【ねらい】

　すごろくトーキングなどの自己開示に関する授業の発展編である。日々起こっている困難に対して「どうしてきたのか」「どう解決してきたか」などということをふりかえり、シェアしていく。ピンチの時の対処法・対処力を共有することで、さらに信頼関係をさらに深めるだけではなく人間力を育成していく。

【概要】

　教員のモデリングからスタートする。教員として何か困難やピンチに遭遇したとき「どうした」か。モデリング用の大きな困難カードをひいて、それに答えてみせる。子どもたちは班ごとに困難カード（困難１～６）のお題に一人ずつ答えていくのであるが、困難１～６へ進んでいくにつれて困難の度合いは増してくるのである。しかも後半の困難は人間関係に関わるものなので、だんだんと答えづらくなってくる。しかし、このハードルを乗り越えていけば新しいさらに深まった人間関係が待っている。もちろん言いたくないお題には「そんな経験はありません。」と答えることができる。ウォーミングアップは、自分の好きな色とその色がもつイメージを語る。それまでの授業をふまえ、本時につなぐためのソフトな自己開示である。

【流れ】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 留意点・教具等 |
| ウォーミングアップ | 『この色なぁに？』  ①教員のモデリング  　　折り紙セットから一枚を選び、「わたしはこの色が好きです。なぜなら～だからです。」と発表する。発表を聴いた子どもたちに聴いた後「そうなんですか。」という受け止めを言ってもらう。  ②班での発表  　　折り紙セットを班の真ん中に置き、一人ずつ教員のモデリングを参考にして発表していく。聴いた人は受け止めを。 | ○教員が二人いる場合は二人でモデリングを行う。  ○「そうなんですか。」という受け止めは大事だが、強制しないように。  ○折り紙セットを班にひとつずつ配布する。 |
| エクササイズ | 『こんなときどうした？』  ①教員のモデリング  　　モデリング用の困難カードをひき、お題に答える。  子どもには聴いたあとで「そうなんですか。」という受け止めを言ってもらう。  　　教員の困難例  「あなたは、明日がテストの日だというのに、夜になっても明日のテストがほとんど完成してなかったことはありますか。もしあるなら、そのときどうしましたか？」 | ○教員が二人いる場合は、  二人で答えるのもいいし、一人が質問者になり一人が回答者を担ってもよい。  ○教員の自己開示のモデリングは重要です。品位を落とすような失敗例は避けましょう。 |
| エクササイズ | ②困難カードセットを班の真ん中におき、困難１から順に班の全員が答えていく。言いたくないお題には「そんな経験はありません。」と答えてよい。  ③話を聴いた人は「そうなんですか。」という受け止めを言う。話を最後まで聴く。話をさえぎったり、否定したりしてはいけない。困難６まで進めば終了。  【困難カードの内容】  　困難１－宿題ができてない。  　困難２－買い物に行ったらお金が足りなかった。  　困難３－家族の中で趣向の違いからもめた。  　困難４－家族と友だちとの狭間でどちらを選んだか。  　困難５－家の中でもめた。  　困難６－友人ともめた。 | ○困難カードは１から順にセットしておく。  ○話を聴くときのルールを明示しておく。受け止めの台詞は強制してはいけない。  ○実際の困難カードはダウンロードできますが、子どもの状態に合わせてお題を変更することをお勧めします。 |
| ふりかえり・シェアリング | ①ふりかえり用紙に記入する。  ②グループで気づきを共有する。  ③グループでの気づきをクラスで発表する。時間があればグループでナイスアンサーを選出し、クラスに紹介する。 | フィードバックの視点  ・自己開示の深まりを例をあげて紹介する。  ・問題解決の大切さを教員の経験もふまえて紹介する。（説諭にならないように） |

【ポイント】

　自己開示の発展編なので、自己開示の経験が不十分な関係性であれば「そんな経験はありません。」という回答が連発してしまう。安心と信頼が保障された関係性のなかで、より授業の効果が発揮されると言えるだろう。大きな取組の事前や、二学期以降の関係性が成熟してきた状況で実施することが望ましい。

|  |
| --- |
| 子どもの気づき |
| ・みんなの解決法を聞いて「そうしたらいいや～」とか思った。  ・みんなの性格や個性があった。　・みんなの解決方法がおもしろかった。  ・自分と同じ意見もあったけど、意外な意見もあってびっくりした。  ・意外に自分で色々なこと解決してたんや～って思った。  ・今までの自分の解決法って間違ってたかもって思った。 |

|  |
| --- |
| 教員からのコメント |
| ・友だちどうしで友情が深まってくると、相談事とかできるようになってくると思うのですが、プログラムのひとつとしてこのような自己開示ができるとは思いもよりませんでした。「こんなときどうした？」という解決法以上に、「そういうことあるよねぇ。」という共感がひろがり、身を乗り出して聴いている子どももいました。もう少し訊きたくなるような話題もあったようです。すごろくトーキングなどの自己開示の発展としては大成功でした。 |

＊道徳の内容項目との関連：　1-(5) 向上心・個性の伸張　2-(3) 信頼・友情 4-(6) 家族愛